

連携医療機関向け広報誌

COMPASS

NAGOYA EKISAIKAI HOSPITAL

vol.05

2023 September

Hand and Microsurgery Center



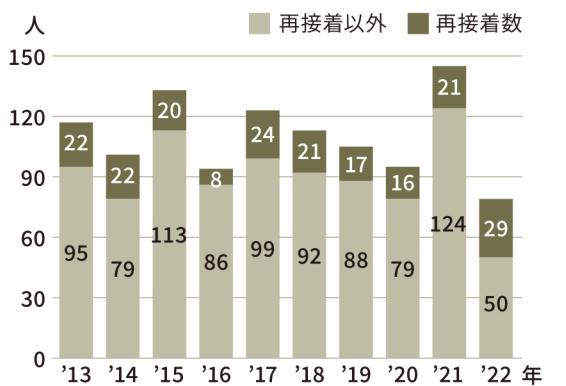


手外科とは、手の怪我や病気を治療する診療科です。日本手外科学会の学会員は整形外科と形成外科で構成されておりますが、当院は整形外科・手外科として活動をしており、手や指の骨折など一般的な外傷、手の疾患に加え、腱損傷、神経損傷、血管損傷の修復、切断指再接着に代表されるようなマイクロサージャリーを活かした治療を強みに40年以上に渡り診療活動を行っています。

21世紀以降、関節鏡に代表される低侵襲手術、また特に近年は手指の人工関節や人工神経など、多くの新規医療材料や医療技術が開発されています。40年来積み重ねた診療実績や診療経験を継代しつつ、日々進歩する医療技術も十分に活用しながら、患者さんごとにオーダーメイドの治療を行うようにしています。

近年日本の高齢化に伴い、手の変形や骨粗鬆症に関連する骨折なども増加傾向です。手の怪我、手の痛みや使いづらさ、しづれ、変形でお困りの方がおられましたらぜひご紹介ください。

—— 切断指症例 ——





緊急手術の受け入れ

指切断だけでも、名古屋市全域及び近隣自治体、他県からの搬送患者も含めて当科で年間平均120件程度の受入をしており、これは少なくとも愛知県内最多の数です。当然指切断以外の上肢外傷に対しても緊急手術を受け入れており、年間600件程度は手外科医が緊急手術を行っています。



リハビリとの連携

手外傷や手疾患の治療は、見た目が元通りになっただけでなく機能回復が得られてこそ意義があります。手外科医による十分な手術治療に加え、専門の療法士(ハンドセラピスト)による後療法(ハンドセラピー)がなされることがとても大事です。当院では、手外科医とハンドセラピストが密に連携しており、手術から外来までひとつながりで治療することができるという強みがあります。



マイクロサージャリー

手術用顕微鏡を用いた手術を「マイクロサージャリー」といい、通常10-20倍の拡大した視野で手術を行います。指の神経や血管であればそのサイズはおよそ直径1ミリほどで、損傷がある場合には50-100ミクロン程度の針がついた10-20ミクロン程度の太さの糸を用いて修復します。上肢、手指の再接着の他、労働災害や交通事故で生じた開放創や皮膚軟部欠損に他の部位からの血管柄付き遊離皮弁も行っています。当院の手外科医は整形外科医もありますので、上肢下肢を問わず、骨や皮膚軟部の再建、神経や血管の修復などを全て担っておりまます。

OUR STRENGTH

名古屋掖済会病院の手外科・マイクロサージャリーセンターの強み

私たちの医療で地域にもっと安心感を。

手外科・
マイクロサージャリーセンター
設立から4年目を迎えて

太田一 この4年間で地域のドクター一 や住民の方々の間にも、名古屋掖済会病院の「手の外科」のことが浸透してきているように感じますね。

切断指接着力が年間120件という数字です。東海エリアでトップクラスの実績として私たちも自負しているところです。

丹羽一三セントリーは、マイクロサージャリーアによる皮膚欠損の遊離皮弁などに常時対応できる数少ない医療機関のひとつです。その強みが数字に表れているのでしょうね。

太田一 私たちは、手外科の専門医として、またマイクロサーボジャリーの技術においても長年修行を積んできました。その修行は、いまも続いているともいえますが症例数や実績の蓄積は、私たち

に感じるのは確かですね。

太田一 大きな手術の場合には2～3名の整形外科医で対応することが多いのですが、緊急手術などで人手が足りない場合には他科の医師が全身管理にあたることもある。そうした連携の

などでお悩みの患者様や骨粗鬆症の患者様が当センターを訪れるケースも増えています。

ない、あるいは患者様ご自身が満足される状態に至らないといった場合にはぜひ私たちにお声がけいただきたいで

太田一 日頃から患者様のことをよく
知つておられる先生方とマイクロサー
ジヤリーにも対応可能な当センターが
力を合わせれば、患者様に最善の医療

藤原一当センターには手外科診療専
従の作業療法士(ハンドセラピスト)も
いますから、治療後のリハビリまで責任
を持っておこないます。

丹羽一 手術を担当させていたいたいた
患者様と後日お会いした時、元気に機能
回復された姿を見るのが、一番の喜びで
すからね。地域の先生方との喜び

伝統を引き継ぎ

藤原——先ほども触れた風土や伝統は頼に裏付けられた整形外科を進化させる形で生まれた当センターは、今後どのように成長していくべきでしょうか。



金原伸行部長・手外科部長
手外科・マイクロサージャリーセンター長 整形外科部長 整形外科部長
太田英之 **藤原祐樹** **丹羽智史**

藤原一 象徴的な実績を挙げるならば、名古屋招待会や住民の方々の間にも、病院の「手の外科」のことが浸透しているように感じますね。

良さとチームワークも、当院の強みだと思いますが、いかがですか。

よさは専院の風土にならっていますね。それに、手外科の教育研修機関にも認定されていますから、私たちのほかにも多くの若手医師たちが活躍して

丹羽一彼らの情熱には、いつも感服させられます。そうした志ある若手を育てていくことも私たちの使命だと思っています。

を上達させたい。彼らの貪欲なまでに成長しようとする姿からは強い意志が伝わってきて、私たちの刺激にもなっています。

A surgeon wearing a maroon scrub top and a blue surgical cap is shown from the chest up, looking upwards and to the right. The background is a light green wall with a white computer monitor visible on the right.



談論風発の医療現場を 実現するためには

を加えるなら、治療方針を決める際の議論が活発に交わされていることではないでしょうか。

それそれか培った知識や経験を持ち寄り、オープンな議論がなされることはあるのですが、実践するのには案外難しいと言われていますよね。

地域社会の安心のために
当センターができること

太田一「つねづね地域医療に尽力されているクリニックの先生方と当センターがタッグを組めば、さらなる安心と質の高い医療を地域にお届けできると思つてゐるのですが、気軽にご相談いただければ、どうしたらいいでしようか。

藤原一当センターに対しても、緊急性の高い患者様に対応する医療機関のイメージをお持ちかもしませんが、近年では高齢化が進み、手足の変形

■名 称 名古屋掖済会病院

■管理者 院長 北川 喜己

■病床数 602床

■診療科（全37課）

内科、血液内科、腎臓内科、糖尿病・内分泌内科、脳神経内科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、
膠原病リウマチ内科、小児科、精神科、外科、消化器外科、肛門外科、乳腺外科、呼吸器外科、整形外科・
手外科、形成外科、脳神経外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、
リハビリテーション科、放射線科、病理診断科、救急科、麻酔科、歯科、歯科口腔外科、緩和ケア内科、
腫瘍内科、健康管理科、産業保健科